

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2016年6月30日(30.06.2016)



(10) 国際公開番号

WO 2016/104038 A1

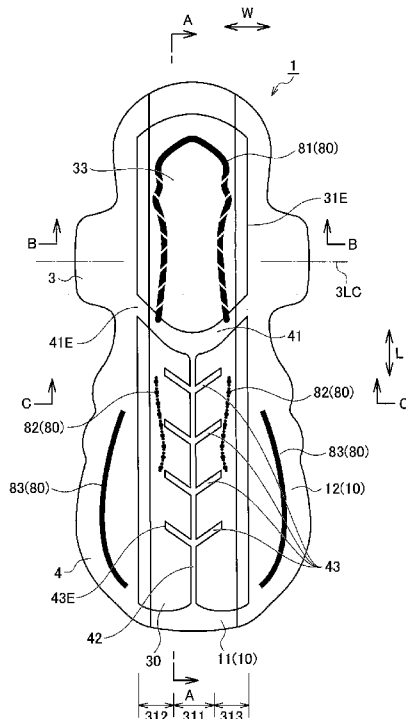
- (51) 国際特許分類:
A61F 13/15 (2006.01) A61F 13/53 (2006.01)
A61F 13/472 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2015/083219
- (22) 国際出願日: 2015年11月26日(26.11.2015)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2014-260755 2014年12月24日(24.12.2014) JP
- (71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社 (UNICHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分182番地 Ehime (JP).
- (72) 発明者: 西谷 和也 (NISHITANI, Kazuya); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 木下 英之 (KINOSHITA, Hideyuki); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).
- (74) 代理人: フェリシテ特許業務法人 (FELICITE PATENT PROFESSIONAL CORPORATION); 〒1050002 東京都港区愛宕二丁目5番1号 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

[続葉有]

(54) Title: ABSORBITIVE ARTICLE

(54) 発明の名称: 吸収性物品

[図1]



(57) Abstract: Provided is an absorbent article which fits the absorbent article to the buttocks of the wearer and which can suppress leaking. This absorbent article (1) comprises an excretion orifice contact region (S1) which faces towards the excretion orifice of the wearer, a rear region (S2) positioned to the rear of the excretion orifice contact region (S1), and an absorbent core (31) which is arranged in the excretion orifice contact region (S1) and the rear region (S2). The absorbent core in the rear region comprises a first region (311), and also a second region (312) and a third region (313) which are positioned outwards of the first region in the width direction. In the first region, a lengthwise slit (42) is provided which extends in the length direction of the absorbent article and penetrates in the thickness direction of the absorbent core. In the second region and the third region, rear compressed portions (82) are provided which extend in the length direction of the absorbent article and in which at least the absorbent core is compressed in the thickness direction.

(57) 要約: 着用者の臀部に対して吸収性物品をフィットさせ、漏れを抑制できる吸収性物品を提供する。吸収性物品(1)は、着用者の排泄口と対向する排泄口当接域(S1)と、排泄口当接域よりも後方に位置する後側域(S2)と、排泄口当接域と後側域に配置される吸収コア(31)と、を有する。後側域の吸収コアは、第1領域(311)、第1領域の幅方向の外側にそれぞれ位置する第2領域(312)及び第3領域(313)を有する。第1領域には、吸収性物品の前後方向に延び、かつ吸収コアの厚み方向に貫通した前後スリット(42)が設けられる。第2領域及び第3領域には、吸収性物品の前後方向に延び、かつ少なくとも吸収コアが厚み方向に圧搾された後側圧搾部(82)がそれぞれ設けられる。

WO 2016/104038 A1



(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK,

SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称： 吸収性物品

技術分野

[0001] 本発明は、生理用ナプキン等の吸収性物品に関する。

背景技術

[0002] 特許文献 1 には、肌当接面側に隆起する中高部と、中高部の幅方向の両外側に設けられ、かつ表面シートと吸収体を圧搾した防漏溝と、を有する吸収性物品が開示されている。吸収性物品の股下域は、着用された状態で着用者の脚によって挟まれ、幅方向の内側に向かう力が掛かる。特許文献 1 の吸収性物品に幅方向の内側に向かう力が掛かると、防漏溝が着用者の股下肌側へ折れ曲がり、これに伴って吸収体の中高部が隆起する（特許文献 1 の段落 0016 参照）。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献 1：特開 2012-239722 号公報

発明の概要

[0004] しかし、上述した吸収性物品には、以下の問題点がある。

[0005] 着用者の臀部近傍の幅方向に沿った身体の断面形状は、左右の臀部が膨らみ、この臀部間が窪んだ形状である。特許文献 1 の中高部は、股下域から後方に延びているため、股下域の吸収体が隆起すると、後側域の吸収体も隆起する。特許文献 1 の後側域の中高部は、目付が高く構成されているため、着用者側に隆起した際に隆起する厚みが厚くなり、身体の臀部の窪みに沿って配置され難い。その結果、着用者の臀部と吸収性物品との間に隙間が生じ、漏れが発生することがあった。

[0006] 本発明は、上述の課題に鑑みてなされたものであり、着用者の臀部に対して吸収性物品をフィットさせ、漏れを抑制できる吸収性物品を提供することを目的とする。

[0007] 上述した課題を解決するため、本開示に係る吸収性物品（吸収性物品１）は、着用者の排泄口と対向する排泄口当接域（排泄口当接域Ｓ１）と、前記排泄口当接域よりも後側に位置する後側域（後側域Ｓ２）と、前記排泄口当接域と前記後側域に配置される吸収コア（吸収コア３１）と、を有する吸収性物品であって、前記後側域の吸収コアは、第１領域（第１領域３１１）、前記第１領域の幅方向の外側にそれぞれ位置する第２領域（第２領域３１２）及び第３領域（第３領域３１３）を有し、前記第１領域には、前記吸収性物品の前後方向に延び、かつ前記吸収コアの厚み方向に貫通した前後スリット（前後スリット４２）が設けられ、前記第２領域及び前記第３領域には、前記吸収性物品の前後方向に延び、かつ少なくとも前記吸収コアが厚み方向に圧搾された後側圧搾部（後側圧搾部８２）がそれぞれ設けられることを要旨とする。

[0008] また、本開示に係る吸収性物品（吸収性物品１）は、着用者の排泄口と対向する排泄口当接域（排泄口当接域Ｓ１）と、前記排泄口当接域よりも後側に位置する後側域（後側域Ｓ２）と、前記排泄口当接域と前記後側域に配置される吸収コア（吸収コア３１）と、を有する吸収性物品であって、前記後側域の吸収コアは、第１領域（第１領域３１１）、前記第１領域の幅方向の外側にそれぞれ位置する第２領域（第２領域３１２）及び第３領域（第３領域３１３）を有し、前記第１領域には、前記吸収性物品の前後方向に延び、かつ前記後側域の前記吸収コアが着用者側に隆起することができるよう構成された曲部（前後スリット４２）が設けられ、前記第２領域及び前記第３領域には、前記第２領域と前記第３領域との間の吸収コアが着用者側に隆起する変形の基点（後側圧搾部８２）がそれぞれ設けられることを要旨とする。

図面の簡単な説明

[0009] [図１]実施形態に係る吸収性物品の平面図である。

[図２]図１に示す吸収性物品の背面図である。

[図３]図１に示すＡ－Ａ断面の模式断面図である。

[図4]図1に示す吸収性物品1の着用者に装着された状態の断面図である。

発明を実施するための形態

[0010] (1) 吸収性物品の全体構成

図1乃至図3を参照して、実施形態に係る吸収性物品1の全体構成について説明する。なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれ得る。

[0011] 図1は、吸収性物品の平面図であり、図2は、吸収性物品の背面図である。図3は、図1に示すA-A断面図である。本実施形態に係る吸収性物品1は、夜用の生理用ナプキンである。

[0012] 吸収性物品1は、着用者の前側（腹側）及び後側（背側）に延びる前後方向Lと、前後方向Lと直交する幅方向Wと、着用者の肌対向面側T1及び非肌対向面側T2に延びる厚み方向Tと、を有する。

[0013] 吸収性物品は、着用者の排泄口当接域に配置される排泄口当接域S1と、排泄口当接域S1の後側に位置する後側域S2と、排泄口当接域S1の前側に位置する前側域S3と、を有する。後側域S2の前後方向Lの長さは、排泄口当接域S1の前後方向Lの長さよりも長い。排泄口当接域S1は、下着に装着された状態で、下着の股下部に装着される領域である。排泄口当接域S1には、後述するウイングが配置される。排泄口当接域S1と後側域S2の境界は、後述する幅スリット41である。幅スリット41の前端縁は、排泄口当接域S1の後端縁であり、幅スリット41の後端縁は、後側域S2の前端縁である。また、後側域S2の後端縁は、吸収性物品1の後端縁である。排泄口当接域S1と前側域S3の境界は、ウイング3の前端縁である。ウイング3の前端縁は、ウイング3の付け根であり、ウイング3において最も幅方向の内側に窪んだ部分のうち、前側に位置する部分である。ウイング3の前側の付け根は、排泄口当接域S1の前端縁であり、かつ前側域S3の後

端縁である。また、前側域 S 3 の前端縁は、吸収性物品 1 の前端縁である。

図 3 において、排泄口当接域 S 1、後側域 S 2 及び前側域 S 3 の前後方向の範囲を示す。

[0014] 吸収性物品 1 は、吸収体 3 0、吸収体 3 0 よりも肌対向面側 T 1 に位置する肌面シート 1 0、及び吸収体 3 0 よりも非肌対向面側 T 2 に位置する非肌面シート 2 0 を備える。肌面シート 1 0 は、吸収体 3 0 の少なくとも幅方向中央を覆う液透過性の表面シート 1 1 と、表面シート 1 1 の外側縁（幅方向の外側端部）を覆い、幅方向の外側に延出するサイドシート 1 2 と、を有する。非肌面シート 2 0 は、液不透過性のシートである。

[0015] 表面シート 1 1 は、体液等の液体を透過する液透過性のシートである。表面シート 1 1 は、少なくとも吸収体 3 0 の表面を覆う。表面シート 1 1 は、不織布、織布、有孔プラスチックシート、メッシュシート等、液体を透過する構造のシート状の材料であれば、特に限定されない。織布や不織布の素材としては、天然繊維、化学繊維のいずれも使用できる。

[0016] サイドシート 1 2 は、表面シート 1 1 と同様の材料から選ぶことができる。但し、サイドシート 1 2 を乗り越えて吸収性物品 1 の外方へ経血が流れることを防止するためには、サイドシート 1 2 は、疎水性又は撥水性を有することが好ましい。サイドシート 1 2 は、吸収体 3 0 の外側縁、ウイング 3 及びヒップフラップ 4 に配置されている。

[0017] 非肌面シート 2 0 は、肌面シート 1 0 の長さと同様の長さを有する。非肌面シート 2 0 は、ポリエチレンシート、ポリプロピレン等を主体としたラミネート不織布、通気性の樹脂フィルム、スパンボンド、又はスパンレース等の不織布に通気性の樹脂フィルムが接合されたシートなどを用いることができる。

[0018] 吸収体 3 0 は、吸収材料が積層された吸収コア 3 1 と、吸収コア 3 1 を覆うコアラップ 3 2 と、を有する。吸収材料は、例えば、親水性繊維、パルプ、及び SAP を例示できる。なお、本実施の形態の吸収体 3 0 は、吸収コア 3 1 の後端縁とコアラップ 3 2 の後端縁が略一致している。

[0019] 吸収コア 3 1 は、排泄口当接域 S 1 と後側域 S 2 に配置される。なお、吸収コア 3 1 は、排泄口当接域 S 1 と後側域 S 2 のそれぞれに分断された状態で配置されていてもよいし、排泄口当接域 S 1 と後側域 S 2 に跨って配置されていてもよい。また、吸収コア 3 1 は、少なくとも排泄口当接域 S 1 と後側域 S 2 に配置されていればよく、排泄口当接域 S 1、後側域 S 2 及び前側域 S 3 に配置されていてもよい。

[0020] 吸収コア 3 1 は、吸収コア 3 1 の外側縁 3 1 E よりも幅方向の内側に位置する中高部 3 3 を有する。中高部 3 3 は、排泄口当接域 S 1 内に位置し、排泄口当接域 S 1 の吸収コア 3 1 の外側縁 3 1 E よりも幅方向の内側に位置する。中高部 3 3 の厚さは、排泄口当接域 S 1 における吸収コア 3 1 の外側縁 3 1 E の厚さよりも厚い。中高部 3 3 の吸収材料の目付は、排泄口当接域 S 1 における吸収コア 3 1 の外側縁 3 1 E の吸収材料の目付よりも高い。中高部 3 3 は、排泄口当接域 S 1 内の後側に位置し、幅スリット 4 1 に隣接している。本実施の形態の中高部 3 3 の外側縁には、吸収体 3 0 と肌面シート 1 0 が厚み方向に圧縮された圧搾部 8 0 が設けられている。

[0021] 吸収コア 3 1 は、幅スリット 4 1、前後スリット 4 2、及び補助スリット 4 3 を有する。吸収コア 3 1 は、幅スリット 4 1、前後スリット 4 2、及び補助スリット 4 3 は、吸収コア 3 1 が厚み方向 T に曲がることができるように構成されている。

[0022] 幅スリット 4 1 及び補助スリット 4 3 の吸収材料の目付は、周囲の吸収コア 3 1 の吸収材料の目付よりも低い。周囲の吸収コア 3 1 とは、幅スリット等に隣接する領域の吸収コアであり、例えば、排泄口当接域 S 1 において幅スリット 4 1 に隣接する吸収コア、及び後側域 S 2 において幅スリット 4 1 に隣接する吸収コアである。なお、幅スリット 4 1、前後スリット 4 2 及び補助スリット 4 3 は、吸収材料の目付が周囲の吸収コア 3 1 よりも低い領域であればよく、目付が 0 の領域であってもよいし、設計上の目付が 0 であるが、周囲の吸収コア 3 1 から混入した吸収材料が配置された領域であってもよい。

[0023] 本実施の形態の幅スリット4 1、前後スリット4 2、及び補助スリット4 3は、設計上の目付が0である。よって、厚み方向Tにおいて幅スリット4 1に重なる領域、前後スリット4 2に重なる領域、及び補助スリット4 3に重なる領域において、肌面シート1 0と非肌面シート2 0の間には、吸収材料が配置されていない。また、厚み方向Tにおいて幅スリット4 1に重なる領域、前後スリット4 2に重なる領域、及び補助スリット4 3に重なる領域において、肌面シート1 0と非肌面シート2 0とは接合されていない。

[0024] また、幅スリット4 1に重なる領域、前後スリット4 2に重なる領域、及び補助スリット4 3に重なる領域において、吸収コア3 1の肌対向面側に位置するコアラップ3 2と吸収コア3 1の非肌面側に位置するコアラップ3 2とは、接合されていてもよいし、接合されていなくてもよい。例えば、吸収コア3 1の肌対向面側に位置するコアラップ3 2と吸収コア3 1の非肌対向面側に位置するコアラップ3 2とが接合されている構成によれば、吸収コア3 1の型崩れを抑制できる。また、幅スリット4 1に重なる領域、前後スリット4 2に重なる領域、及び補助スリット4 3に重なる領域において、表面シート1 1とコアラップ3 2とは、接合されていてもよいし、接合されていなくてもよい。加えて、幅スリット4 1に重なる領域、前後スリット4 2に重なる領域、及び補助スリット4 3に重なる領域において、非肌面シート2 0とコアラップ3 2とは、接合されていてもよいし、接合されていなくてもよい。

[0025] また、前後スリット4 2は、吸収コア3 1の厚み方向に貫通したスリットである。前後スリット4 2は、目付が0の領域であってもよいし、設計上の目付が0であるが、周囲の吸収コア3 1から混入した吸収材料が配置された領域であってもよい。よって、厚み方向Tにおいて前後スリット4 2に重なる領域において、肌面シート1 0としての表面シート1 1と非肌面シート2 0の間には、吸収材料が配置されていない。また、厚み方向Tにおいて前後スリット4 2に重なる領域において、表面シート1 1と非肌面シート2 0とは接合されていない。

[0026] 幅スリット41、前後スリット42及び補助スリット43は、剛性が変化する境界となる。具体的には、例えば、幅スリット41よりも前側の領域の剛性と、幅スリット41よりも後側の領域の剛性とは、異なる。より詳細には、幅スリット41よりも前側の領域の吸収材料の目付は、幅スリット41の吸収材料の目付よりも高い。また、幅スリット41よりも後側の領域の吸収材料の目付は、幅スリット41の吸収材料の目付よりも高い。

[0027] 幅スリット41は、排泄口当接域S1と後側域S2の間において幅方向Wに延びる。幅スリット41、少なくとも幅方向に延びていればよく、幅方向に平行な直線状であってもよいし、幅方向に平行でなく、幅方向に対して傾斜した直線状又は曲線状であってもよい。本実施の形態の幅スリットは、幅スリット41の幅方向の中央が後方に突出した曲線形状である。より詳細には、幅スリット41の幅方向の中心は、幅スリット41の外側縁よりも後方に位置する。幅スリット41の幅方向の中心は、後方に向かう凸状である。なお、幅スリットの前後方向における長さは、一定であってもよいし、変化していてもよい。また、幅スリットの前後方向の長さは、10mm以上かつ50mm以下であり、より好ましくは、幅スリットの前後方向の長さは、10mm以上かつ30mm以下である。

[0028] 例えば、幅スリット41の前後方向の長さが10mm未満の場合には、幅スリット41の前側の動きと幅スリット41の後側の動きとを緩衝し、又は分断する作用を十分に得ることができないことがある。また、幅スリット41の前後方向の長さが50mmを超える場合には、幅スリット41の前側の動きと幅スリット41の後側の動きとを緩衝し、又は分断する作用が大きくなる一方、吸収性物品としての安心感が低減することがある。

[0029] また、幅スリット41の幅方向の長さは、25mm以上であることが好ましい。一般的に、夜用の生理用ナプキンの中高部33の幅方向の長さ（目付が比較的高い部分の幅方向の長さ）は、25mm以上30mm以下であることが多い。例えば、中高部33が排泄口当接域S1と後側域S2に連続して形成されていると、当該中高部によって排泄口当接域S1の動きが後側域S

2に連動することがある。しかし、幅スリット41の幅方向の長さが25mm以上であることにより、中高部33を前後方向で分断し、排泄口当接域S1の動きが後側域S2に連動することを抑制できる。

[0030] 幅スリット41は、吸収コア31の幅方向の全域に形成されていてもよいし、吸収コアの幅方向の一部の領域に形成されていてもよい。本実施の形態の幅スリット41は、吸収コア31の幅方向全域に形成されている。幅スリット41の外側縁41Eは、吸収コア31の外側縁31Eに位置する。よって、排泄口当接域S1の吸収コア31と後側域S2の吸収コア31とは、幅スリット41によって前後方向に分断されている。なお、本実施の形態の吸収体30は、吸収コア31の外側縁と吸収体30の外側縁が略一致している。よって、図面上、幅スリット41の外側縁41Eは、吸収体30の外側縁と一致するように示す。

[0031] 前後スリット42は、後側域S2において前後方向Lに延びる。前後スリット42は、少なくとも前後方向に延びていればよく、前後方向に平行な直線状であってもよいし、前後方向に平行でなく、前後方向に対して傾斜した直線状又は曲線状であってもよい。前後スリット42は、後側域S2の吸収コア31の前後方向Lの全域に形成されていてもよいし、後側域S2の吸収コア31の前後方向の一部の領域に形成されていてもよい。本実施の形態の前後スリット42は、後側域S2の吸収コアの前後方向Lの全域に形成されている。よって、後側域S2の吸収コア31は、前後スリット42によって幅方向に分断されている。

[0032] また、前後スリット42の前端縁は、ウイング3の前後方向の中心3LCから30mm後方の位置よりも後方に位置することが好ましい。また、前後スリット42の後端縁は、ウイング3の前後方向の中心3LCから200mm後方の位置よりも後方に位置することが好ましい。前後スリット42の前後方向の長さは、150mm以上であることが好ましい。着用者の身体の前後方向に沿った断面において、臀部間の溝は、会陰部を越えた辺りからはじまり、尾てい骨に至るまで存在する。このような前後スリット42によれば

、前後スリットを頂点とした凸状の変形が臀部間の溝に配置され易くなる。

[0033] また、前後スリット42の幅方向の長さは、1mm以上かつ15mm以下である。例えば、前後スリット42の幅方向の長さが1mm未満の場合には、前後スリット42を頂点として凸状に変形した際に、幅スリットを挟んで配置された吸収コア31同士が干渉し、安定的に凸状に変形し難くなる。また、前後スリット42の幅方向の長さが15mmを超える場合には、前後スリット42を頂点とした凸状の変形部分が臀部間の隙間に配置された際に、凸状の変形部分に吸収コアが存在しないため、体液の吸収が疎かになってしまうことがある。

[0034] 後側域S2の吸収コア31は、第1領域311、第1領域311の幅方向の外側にそれぞれ位置する第2領域312及び第3領域313を有する。図1に、第1領域311、第2領域312及び第3領域313の幅方向の範囲を示す。第1領域311、第2領域312及び第3領域313は、後側域S2の吸収コア31を幅方向において3等分した領域である。第1領域311は、3等分した領域のうち幅方向中央に位置する領域である。第2領域312は、3等分した領域のうち幅方向の一方の側部に位置する領域である。第3領域313は、3等分した領域のうち幅方向の他方の側部に位置する領域である。なお、後側域S2の吸収コアの幅方向の長さが変化する構成にあっては、幅スリット41に隣接する吸収コア31を幅方向において3等分した領域とする。

[0035] 前後スリット42は、第1領域311に設けられている。前後スリット42は、吸収性物品1の幅方向Wの中心に配置されていてもよい。前後スリット42は、後側域S2の吸収コア31が厚み方向Tに曲がることできるように構成され、より詳細には、後側域S2の吸収コア31が着用者側に隆起できるように構成されている。前後スリット42は、曲部を構成する。なお、曲部は、前後スリットのみならず、他の構成によって構成されていてもよい。例えば、曲部は、少なくとも吸収コアを厚み方向に圧搾した圧搾部によって構成されていてもよいし、吸収コアの目付が周囲と異なることによって

剛性が異なる領域によって構成されていてもよいし、凹部と凸部のかみ合わせによって成形されたエンボスによって構成されていてもよい。

[0036] 幅スリット4 1と前後スリット4 2とは、連なっている。よって、平面視にて、排泄口当接域S 1の吸収コア3 1と、後側域S 2の幅方向Wの一方側の吸収コア3 1（例えば、着用者の左側に位置する吸収コア）と、後側域S 2の幅方向Wの他方側の吸収コア3 1（例えば、着用者の右側に位置する吸収コア）とは、分断されている。なお、幅スリット4 1と前後スリット4 2とは、離間していてもよい。

[0037] 補助スリット4 3は、前後スリット4 2に連なり、かつ前後スリット4 2から幅方向Wの外側に延びる。補助スリット4 3は、少なくとも幅方向に延びていればよく、幅方向に平行な直線状であってもよいし、幅方向に平行でなく、幅方向に対して傾斜した曲線状であってもよい。補助スリット4 3は、前後スリット4 2の幅方向の両側にそれぞれ延びている。補助スリット4 3は、前後方向Lに間隔を空けて複数設けられている。補助スリット4 3の外側縁4 3 Eは、後側域S 2の吸収コア3 1の外側縁3 1 Eよりも幅方向Wの内側に位置する。すなわち、補助スリット4 3の幅方向の外側には、吸収材料が配置されている。なお、補助スリット4 3は、後側域S 2の吸収コア3 1の外側縁3 1 Eまで延びていてもよい。補助スリット4 3は、幅方向Wの内側から幅方向Wの外側に向かうにつれて前側に延びる。

[0038] 吸収性物品には、少なくとも吸収コアが厚み方向に圧搾された圧搾部8 0が設けられている。圧搾部8 0は、前側圧搾部8 1と、後側圧搾部8 2と、ヒップフラップ圧搾部8 3と、を有する。前側圧搾部8 1は、排泄口当接域S 1と前側域S 3に配置されており、吸収体3 0と表面シート1 1とが厚み方向に圧縮されている。前側圧搾部8 1は、排泄口当接域S 1の幅方向の中心よりも幅方向の両外側において前後方向に延びる。前側圧搾部8 1の前端縁は、前側に向かって先細る先細り形状である。

[0039] 後側圧搾部8 2は、後側域S 2の第2領域3 1 2と第3領域3 1 3にそれぞれ配置されており、吸収体3 0と表面シート1 1とが厚み方向に圧縮され

ている。後側圧搾部 8 2 は、吸収コアが配置された領域内に設けられている。後側圧搾部 8 2 は、補助スリット 4 3 よりも幅方向の両外側において前後方向 L に延びる。後側圧搾部 8 2 は、少なくとも前後方向に延びていればよく、前後方向に平行な直線状であってもよいし、前後方向に平行でなく、前後方向に対して傾斜した曲線状であってもよい。後側圧搾部 8 2 は、補助スリット 4 3 よりも幅方向の外側、かつ吸収コアの外側縁よりも幅方向の内側に位置する。後側圧搾部 8 2 は、厚み方向において補助スリット 4 3 に重なっていない。なお、前側圧搾部 8 1 及び後側圧搾部 8 2 は、少なくとも吸収コアが圧搾されていればよい。後側圧搾部 8 2 は、吸収コア 3 1 及び肌面シート（表面シート 1 1）が肌対向面側 T 1 から非肌対向面側 T 2 に向かって圧縮されることによって形成される。

[0040] ヒップフラップ圧搾部 8 3 は、後側域 S 2 に配置されており、サイドシート 1 2 と非肌面シート 2 0 とが厚み方向に圧縮されている。ヒップフラップ圧搾部 8 3 は、ヒップフラップに設けられている。ヒップフラップ圧搾部 8 3 は、前後方向に延びる。ヒップフラップ圧搾部 8 3 は、幅方向 W の外側に向かって突出する凸形状である。

[0041] 吸収性物品 1 は、ウイング 3 と、ヒップフラップ 4 と、を有する。ウイング 3 及びヒップフラップ 4 は、排泄口当接域 S 1 の吸収コア 3 1 の外側縁 3 1 E よりも幅方向の外側に延出している。

[0042] ウイング 3 は、サイドシート 1 2 と、非肌面シート 2 0 と、を有する。ウイング 3 の前後方向の中心 3 L C は、着用者の排泄口に対向して配置される。ウイング 3 は、非肌面シート 2 0 側に折り返し可能に構成されており、使用時に下着のクロッチ部の非肌対向面側に折り返される。ヒップフラップ 4 は、ウイング 3 の後側に位置し、後側域 S 2 に設けられている。ヒップフラップ 4 は、使用時に下着の非肌対向面側に折り返されずに下着の肌対向面側に配置されるように構成されている。なお、ウイング 3 及びヒップフラップ 4 には、吸収材料が配置されていてもよい。

[0043] 図 2 に示すように、非肌面シート 2 0 の非肌対向面には、吸収性物品を下

着Sに止めるための粘着剤が塗布された粘着領域60が設けられている。粘着領域60は、吸収コア31の非肌対向面側に配置された第1本体粘着領域61及び第2本体粘着領域62と、ウイング3に配置されたウイング粘着領域63と、ヒップフラップ4に配置されたヒップフラップ粘着領域64と、を有する。

[0044] 第1本体粘着領域61は、第2本体粘着領域62と前後方向に離間しており、第2本体粘着領域62よりも前方に配置されている。第1本体粘着領域61は、幅スリット41よりも前側において、排泄口当接域S1と前側域S3に跨って配置されている。第2本体粘着領域62は、幅スリット41よりも後側において、後側域S2に配置されている。

[0045] 幅スリット41及び前後スリット42は、厚み方向Tにおいて粘着領域60に重なっていない。換言すると、平面視にて幅スリット41及び前後スリットが配置された領域には、粘着領域60が設けられていない。また、ウイング3及びヒップフラップ4には、粘着領域60が設けられている。

[0046] 後側圧搾部82は、厚み方向において粘着領域60に重なっている。換言すると、平面視にて後側圧搾部82が配置された領域には、粘着領域60が設けられている。なお、後側圧搾部82の少なくとも一部が、粘着領域60に重なっていればよい。本実施の形態の後側圧搾部82は、第2本体粘着領域62に重なっている。また、本実施の形態において2つの部材が重なる構成とは、2つの部材が当接して直接重なる構成のみならず、他の部材を介して間接的に重なる構成を含む概念である。

[0047] 粘着領域60は、使用前の状態において、剥離シート65によって覆われている。剥離シート65は、使用前に接着剤が劣化するのを防止している。剥離シート65は、使用時に着用者によって剥離される。なお、剥離シートを有しない吸収性物品においては、吸収性物品を個別に包装する包装シートによって使用前に接着領域が劣化するのを防止するように構成されていてもよい。

[0048] 本明細書における「吸収体の厚さ」の測定は、以下の測定方法によって行

われるものとする。

[0049] 吸収性物品 1 がパッケージなどに封入されている場合には、パッケージから取り出し、その状態にて $20^{\circ}\text{C} \pm 2^{\circ}\text{C}$ 、相対湿度 $60\% \pm 5\% \text{RH}$ の雰囲気下において12時間放置したサンプルを用いる。

[0050] 測定位置は、吸収体の幅方向中央部とする。測定する際は、吸収性物品が縮んだ状態ではなく、吸収性物品の伸縮性部材を伸張させた状態として測定する。また、吸収体以外の肌面シート及び非肌面シート等、吸収体以外の部分を取り除く。尾崎製作所（株）製のダイヤルゲージ P E A C O C K を使用し、測定子には直径 10 mm のものを採用し、大きさが 30 mm × 30 mm の試片を用意して、当該試片の厚みを測定する。測定器は、試片に対する測定圧が $3 \text{ g} / \text{cm}^2$ となるように調整する。ここで、10 サンプルに対して、それぞれの状態で上述の測定を行い、その平均値を、長さとした。

[0051] なお、本明細書における「吸収体の目付及び密度」の測定は、以下の測定方法によって行われるものとする。

[0052] 吸収性物品 1 がパッケージなどに封入されている場合には、パッケージから取り出し、その状態にて $20^{\circ}\text{C} \pm 2^{\circ}\text{C}$ 、相対湿度 $60\% \pm 5\% \text{RH}$ の雰囲気下において12時間放置したサンプルを用いる。

[0053] 包装体によって包装された吸収性物品においては包装体を開封し、折り畳まれた吸収性物品を展開して、目付及び密度を測定する部分の厚み及び面積を測定する。次いで、目付及び密度を測定する部分を吸収性物品から切り出し、切り出した部分の重量を測定する。次いで、切り出した部分から表面シート及び裏面シート等、吸収体以外の部分を取り除き、吸収体の重量を測定する。吸収体の重量と、目付及び密度を測定する部分の面積とに基づいて目付を算出する。目付及び厚みに基づいて、密度を算出する。

[0054] また、本明細書における「長さ」の測定は、以下の測定方法によって行われるものとする。

[0055] 吸収性物品 1 がパッケージなどに封入されている場合には、パッケージから取り出し、その状態にて $20^{\circ}\text{C} \pm 2^{\circ}\text{C}$ 、相対湿度 $60\% \pm 5\% \text{RH}$ の雰囲気下にお

いて12時間放置したサンプルを用いる。

[0056] 次いで、シンワ測定株式会社製のスプリングメジャー（テープ：ガラス繊維入塩ビ被覆）を用いて、測定対象部位に沿わせるようにして、測定対象部位のこの状態の長さを測定する。ここで、10サンプルに対して、それぞれの状態で上述の測定を行い、その平均値を、長さとした。

[0057] （２）作用・効果

本実施の形態の吸収性物品１は、後側域Ｓ２の第２領域３１２及び第３領域３１３に設けられた後側圧搾部８２が変形の基点となり、後側域Ｓ２の第１領域３１１に設けられた前後スリット４２が曲部として着用者側に隆起する。後側圧搾部８２と前後スリット４２によって、排泄口当接域Ｓ１の後方に位置する後側域Ｓ２において、着用者の臀部間の隙間に吸収コア３１をフィットさせることができる。

[0058] 図４は、吸収性物品１が着用者に装着された状態の断面図である。図４（a）は、排泄口当接域Ｓ１における幅方向に沿った断面図であり、図４（b）は、後側域Ｓ２における幅方向に沿った断面図である。図４（a）は、図１のＢ－Ｂ断面を基準としており、図４（b）は、図１のＣ－Ｃ断面を基準としている。図４において、着用者の身体を示すラインを二点鎖線で示す。生理用ナプキンとしての吸収性物品１を着用する際は、吸収性物品を下着Ｓに止着し、当該下着を引き上げて着用する。一般的な生理用ナプキンの吸収コアの幅方向の寸法は、着用者の股間の幅方向の寸法よりも広く設計されている。そのため、着用された状態の吸収性物品１の排泄口当接域Ｓ１は、装着者の両足によって挟まれ、幅方向の外側から幅方向の内側に向かう力を受ける。

[0059] 吸収コア３１の幅方向Ｗに沿った着用者の身体の断面形状は、股下近傍と臀部近傍とで異なる。具体的には、着用者の股下の陰裂（経血が出る膣口あたり）近辺の幅方向に沿った身体の断面形状は、大陰唇が大腿の付け根よりも出っ張っており、吸収性物品側に突出する凸形状である。この着用者の股下域に、吸収性物品の排泄口当接域Ｓ１が対向して配置される。吸収性物品は、

下着Sに装着され、かつ着用者に着用された状態で、排泄口当接域S1の吸収コアが大陰唇の出っ張りに押し下げられ、非肌対向面側に隆起するように変形する。着用者の股下においては、排泄口当接域S1の吸収コアが身体に沿って配置され、股下における漏れを抑制できる。

[0060] また、着用者の大陰唇より後方に位置する会陰部よりも後方には、肛門や臀裂が位置する。この会陰部よりも後方近辺の幅方向に沿った身体の断面形状は、幅方向の中心が窪んだ形状である。この着用者の臀部に、吸収性物品の後側域S2が対向して配置される。例えば、夜用の生理用ナプキンは、仰向けの寝姿勢で使用されることが多い。漏れのおお半は、一回に多量に経血が排出されて、膣口の直下における経血の吸収が間に合わなかった場合や、膣口の直下に位置する吸収体が身体にフィットしていなかった場合に、臀部より窪んだ部分に経血が流れ込み、当該経血が身体を伝って漏れるものである。身体の臀部と吸収性物品の間に隙間が生じていると、特に夜用の生理用ナプキンにおいて、経血が身体を伝わって背側後方に伝わり流れ、吸収性物品の後ろから漏れてしまうおそれがある。

[0061] 本実施の形態の吸収性物品では、後側域S2において吸収コア31の側部に位置する第2領域312及び第3領域313は、左右の臀部によって押し下げされる。このとき、第2領域312及び第3領域313にそれぞれ設けられた後側圧搾部82に力が掛かり、後側圧搾部82間の領域が後側圧搾部82を基点（支点）に着用者側に隆起する。

[0062] 後側域S2の吸収コア31の幅方向Wの中央は、左右の後側圧搾部82間に位置し、着用者側に隆起する。後側域S2の吸収コア31の幅方向の中央には、前後スリット42が設けられている。後側域S2の吸収コア31は、前後スリット42を頂点として変形し易くなる。よって、後側域S2の吸収コア31の幅方向の中央が臀部間の窪みに配置され易く、より着用者の臀部に沿って吸収コア31を配置できる。その結果、経血等の体液が身体を伝わって背側後方に伝わり流れ、吸収性物品の後ろから漏れることを防止できる。

[0063] また、後側域S 2の吸収コア3 1の幅方向の中央は、厚み方向に貫通する前後スリット4 2が形成され、実質的に吸収材料が配置されていない。よって、隆起する部分、特に頂点の厚みが薄くなる。また、前後スリット4 2に吸収材料が配置されていると、当該吸収材料の剛性によって吸収コア3 1が平坦な状態を維持し易く、前後スリット4 2を基点に吸収コア3 1が折れ曲がり難くなることがある。しかし、前後スリット4 2には、実質的に吸収材料が配置されていないため、当該前後スリット4 2を基点に吸収コア3 1が折れた状態を維持し易い。よって、着用者の臀部間の隙間に吸収性物品1をより密着して配置でき、臀部における漏れを抑制できる。

[0064] 加えて、前後スリット4 2によって、後側域S 2の吸収コア3 1を左右で別々に変形させ、また、後側域S 2の吸収コア3 1を左右で別々に身体の動きに追従させることができる。例えば、着用者が歩行する際は、左右の足を交互に動かす。この脚の動きに伴って臀部も左右交互に動く。例えば、後側域S 2の吸収コア3 1の幅方向全域が一体化して移動すると、脚の交互の動きによって後側域S 2の吸収コア3 1全体が左右に移動し、臀部におけるフィット感が安定しないことがある。しかし、後側域S 2の吸収コア3 1が前後スリット4 2によって左右に分断されていることにより、脚の交互の動きによって、前後スリット4 2を挟んだ片方ずつの吸収コア3 1が移動する。よって、前後スリット4 2を挟んだ片方の吸収コア3 1を身体の動きに追従して移動させ、他方の吸収コア3 1を身体にフィットさせ続けることができる。更に、後側域S 2の吸収コアを安定して臀部にフィットさせ続けることにより、着用者の臀部と吸収性物品がこすれることを抑制し、皮膚のすれによる装着感の悪化を抑制できる。

[0065] 後側域S 2の吸収コア3 1は、前後スリット4 2に連なり、かつ前後スリット4 2から幅方向Wの外側に延びる補助スリット4 3を有していてもよい。補助スリット4 3によって幅方向に延びる変形基点が形成される。後側域S 2の吸収コア3 1は、補助スリット4 3を基点に変形でき、身体の前後方向Lに沿った断面における身体の丸みに沿って配置され易くなる。加えて、

後側域 S 2 の吸収コア 3 1 が身体の前方向に沿ってフィットする際に、補助スリット 4 3 の幅が適宜変化することにより、補助スリット 4 3 を挟んで前方向に隣接する吸収コア 3 1 間の距離が変化する。よって、身体の前方向に沿った断面における身体の丸みに沿って吸収コア 3 1 を配置し易くなる。

[0066] 一方、後側圧搾部 8 2 は、上述のように、身体の幅方向に沿った断面における身体の形状に沿って吸収コア 3 1 を配置する変形基点として機能する。補助スリット 4 3 と後側圧搾部 8 2 とが厚み方向において重ならないことにより、補助スリット 4 3 と後側圧搾部 8 2 とがそれぞれ独立して機能し、身体の前方向に沿った断面における身体の丸みに沿う吸収コア 3 1 の変形と、身体の幅方向に沿った断面における身体の形状に沿う吸収コア 3 1 の変形と、の両方を実現できる。

[0067] また、補助スリット 4 3 の幅方向の外側に、後側圧搾部 8 2 や吸収コア 3 1 が設けられていてもよい。補助スリット 4 3 の幅方向の外側に後側圧搾部 8 2 や吸収コア 3 1 が設けられているため、吸収コア 3 1 が前方向に分断しない。また、補助スリット 4 3 を基点として変形する際に後側圧搾部 8 2 や吸収コア 3 1 が支点となって、後側圧搾部 8 2 に挟まれた領域（後側圧搾部 8 2 よりも幅方向の内側の領域）が変形する。よって、身体の前方向に沿った断面における身体の丸みに沿って吸収コア 3 1 が変形する際に、吸収コア 3 1 が前方向に連続した形状となる。よって、後側域 S 2 の吸収コア 3 1 は、臀部の側部を包み込むカップ形状となり易い。

[0068] 前後スリット 4 2 は、後側域 S 2 の吸収コア 3 1 の前方向 L の全域に設けられていてもよい。後側域 S 2 の吸収コア 3 1 の前方向 L の全域に亘って、吸収コア 3 1 が折れた状態を維持し易い。よって、後側域 S 2 の吸収コア 3 1 の前方向の全域に亘って着用者の臀部間の隙間に吸収性物品 1 を配置でき、臀部における漏れを抑制できる。更に、前後スリット 4 2 によって、後側域 S 2 の吸収コア 3 1 の前方向 L の全域に亘って吸収コア 3 1 を左右に分断できる。前後スリット 4 2 を挟んだ片方ずつをより独立して移動で

き、身体へのフィット性を向上できる。

[0069] 後側圧搾部 8 2 の少なくとも一部は、厚み方向において粘着領域 6 0 に重なっていてもよい。後側圧搾部 8 2 が設けられた領域が下着に止着するため、吸収コア 3 1 が後側圧搾部 8 2 を基点に変形する際に、下着によって後側圧搾部 8 2 を支持できる。隆起基点となる後側圧搾部 8 2 が支持されるため、後側圧搾部 8 2 間の領域が隆起した状態を維持し易くなる。

[0070] 前後スリット 4 2 は、厚み方向 T において粘着領域 6 0 に重ならなくてもよい。前後スリット 4 2 が厚み方向において粘着領域に重なっていないことにより、前後スリット 4 2 の変形が下着によって過度に阻害されることを抑制し、前後スリット 4 2 を基点に吸収コア 3 1 が変形し易くなる。

[0071] 後側圧搾部 8 2 は、吸収コア 3 1 及び肌面シート 1 0 が肌対向面側から非肌対向面側に向かって圧縮されることによって形成されていてもよい。このような構成によれば、後側圧搾部 8 2 は、厚み方向 T において吸収コア 3 1 の非肌対向面側に偏倚した位置となる。変形基点となる後側圧搾部 8 2 が非肌対向面側に位置するため、吸収性物品 1 の幅方向の外側から幅方向の内側に向かって力が掛かった際に、厚み方向において吸収コア 3 1 と肌面シート 1 0 を含んだ領域の非肌対向面側に力がかかり、後側圧搾部 8 2 間に位置する領域を肌対向面側に隆起し易くなる。

[0072] 厚み方向において前後スリット 4 2 に重なる領域の肌面シート 1 0 と非肌面シート 2 0 の間には、吸収材料が配置されていなくてもよい。前後スリット 4 2 に重なる領域に吸収材料が配置されていないため、前後スリット 4 2 によって隆起する頂点の厚みがより薄くなる。着用者の幅方向に沿った断面形状において、臀部間の隙間は、図 4 (b) に示すように、鋭角な溝である。例えば、前後スリット 4 2 に重なる領域に吸収材料が配置されていると、前後スリット 4 2 を頂点として凸状の変形がなだらかになり、臀部間の隙間に吸収性物品がフィットしないことがある。しかし、前後スリット 4 2 に重なる領域に吸収材料が配置されていないため、前後スリット 4 2 を頂点として凸状の変形が逆 V 字状の鋭角となり易く、着用者の臀部間の隙間に吸収性

物品をよりフィットさせて配置でき、臀部における漏れを抑制できる。

[0073] 排泄口当接域 S 1 は、吸収コア 3 1 の外側縁 3 1 E よりも幅方向の内側に位置する中高部 3 3 を有していてもよい。排泄口当接域 S 1 に中高部 3 3 が設けられていることにより、排泄口当接域 S 1 の幅方向の中央（吸収コア 3 1 の外側縁 3 1 E よりも幅方向の内側）において、着用者に吸収コアが密着し易くなる。よって、図 4（a）に示す断面図に示すように、排泄口当接域 S 1 における密着性を高めることができる。その結果、後側域 S 2 における吸収性物品のフィット性と、排泄口当接域 S 1 における吸収性物品のフィット性と、を実現できる。

[0074] （3）その他の実施形態

本実施の形態の吸収性物品は、下着に装着される夜用の生理用ナプキンであるが、他の実施形態として、おむつに装着される尿取パッド等の吸収パッドであってもよい。

[0075] 以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。従って、本明細書の記載は、例示説明を目的とするものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

[0076] 2014 年 12 月 24 日に出願された日本国特許出願第 2014-260755 号の全内容が、参照により、本明細書に組み込まれる。

産業上の利用可能性

[0077] 本発明によれば、着用者の臀部に対して吸収性物品をフィットさせ、漏れを抑制できる吸収性物品を提供することができる。

符号の説明

[0078] 1 : 吸収性物品
3 : ウイング
4 : ヒップフラップ

1 0	: 肌面シート
1 1	: 表面シート
1 2	: サイドシート
2 0	: 非肌面シート
3 0	: 吸収体
3 1	: 吸収コア
3 1 E	: 排泄口当接域の吸収コアの外側縁
3 1 1	: 第 1 領域
3 1 2	: 第 2 領域
3 1 3	: 第 3 領域
3 2	: コアラップ
4 1	: 幅スリット
4 2	: 前後スリット (曲部)
4 3	: 補助スリット
6 0	: 粘着領域
6 1	: 第 1 本体粘着領域
6 2	: 第 2 本体粘着領域
6 3	: ウイング粘着領域
6 4	: ヒップフラップ粘着領域
8 0	: 圧搾部
8 1	: 排泄口圧搾部
8 2	: 後側圧搾部
8 3	: ヒップフラップ圧搾部
L	: 前後方向
T	: 厚み方向
T 1	: 肌対向面側
T 2	: 非肌対向面側
W	: 幅方向

S 1 : 排泄口当接域

S 2 : 後側域

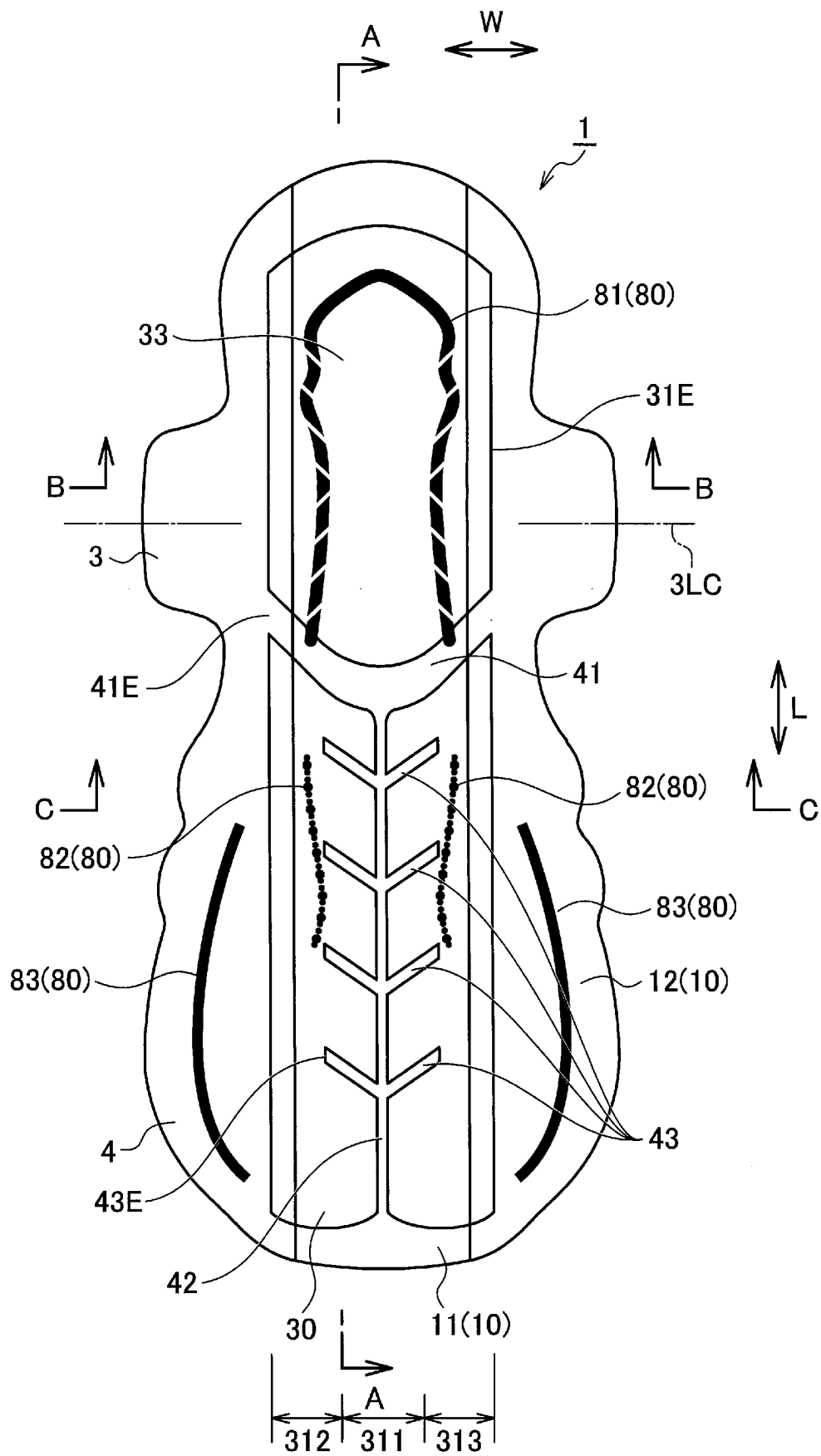
S 3 : 前側域

請求の範囲

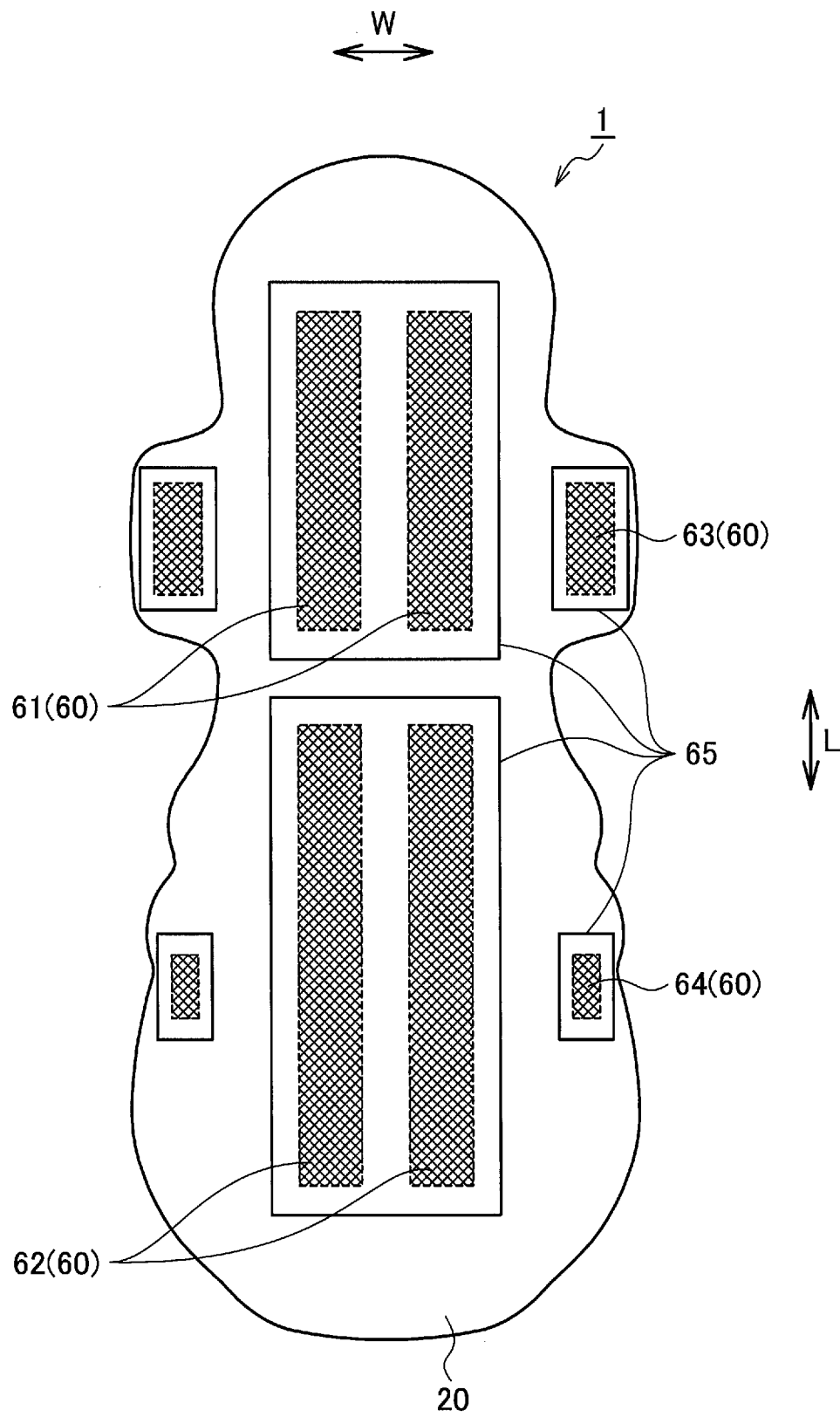
- [請求項1] 着用者の排泄口と対向する排泄口当接域と、
 前記排泄口当接域よりも後側に位置する後側域と、
 前記排泄口当接域と前記後側域に配置される吸収コアと、を有する
 吸収性物品であって、
 前記後側域の吸収コアは、第1領域、前記第1領域の幅方向の外側に
 それぞれ位置する第2領域及び第3領域を有し、
 前記第1領域には、前記吸収性物品の前後方向に延び、かつ前記吸
 収コアの厚み方向に貫通した前後スリットが設けられ、
 前記第2領域及び前記第3領域には、前記吸収性物品の前後方向に
 延び、かつ少なくとも前記吸収コアが厚み方向に圧搾された後側圧搾
 部がそれぞれ設けられる、吸収性物品。
- [請求項2] 前記後側域の前記吸収コアは、前記前後スリットに連なり、かつ前
 記前後スリットから幅方向の外側に延びる補助スリットを有し、
 前記補助スリットと前記後側圧搾部とは、厚み方向において重なら
 ない、請求項1に記載の吸収性物品。
- [請求項3] 前記前後スリットは、前記後側域の前記吸収コアの前後方向の全域
 に設けられる、請求項1又は請求項2に記載の吸収性物品。
- [請求項4] 前記吸収コアよりも非肌対向面側に位置する非肌面シートを備え、
 前記非肌面シートの非肌対向面には、前記吸収性物品を下着に止め
 るための粘着剤が塗布された粘着領域が設けられており、
 前記後側圧搾部の少なくとも一部は、厚み方向において前記粘着領
 域に重なる、請求項1から請求項3のいずれかに記載の吸収性物品。
- [請求項5] 前記吸収コアよりも非肌対向面側に位置する非肌面シートを備え、
 前記非肌面シートの非肌対向面には、前記吸収性物品を下着に止め
 るための粘着剤が塗布された粘着領域が設けられており、
 前記前後スリットは、厚み方向において前記粘着領域に重ならない
 、請求項1から請求項3のいずれかに記載の吸収性物品。

- [請求項6] 前記吸収コアよりも肌対向面側に位置する肌面シートを備え、
前記後側圧搾部は、前記吸収コア及び前記肌面シートが肌対向面側から非肌対向面側に向かって圧縮されることによって形成される、請求項1から請求項5のいずれかに記載の吸収性物品。
- [請求項7] 前記吸収コアよりも肌対向面側に位置する肌面シートと、
前記吸収コアよりも非肌対向面側に位置する非肌面シートと、
前記前後スリットに重なる領域の前記肌面シートと前記非肌面シートの間には、吸収材料が配置されていない、請求項1から請求項3のいずれかに記載の吸収性物品。
- [請求項8] 前記排泄口当接域は、前記吸収コアの外側縁よりも幅方向の内側に位置する中高部を有し、
前記中高部の厚みは、前記排泄口当接域における前記吸収コアの外側縁の厚みよりも厚い、請求項1から請求項7のいずれかに記載の吸収性物品。
- [請求項9] 着用者の排泄口と対向する排泄口当接域と、
前記排泄口当接域よりも後側に位置する後側域と、
前記排泄口当接域と前記後側域に配置される吸収コアと、を有する吸収性物品であって、
前記後側域の吸収コアは、第1領域、前記第1領域の幅方向の外側にそれぞれ位置する第2領域及び第3領域を有し、
前記第1領域には、前記吸収性物品の前後方向に延び、かつ前記後側域の前記吸収コアが着用者側に隆起することができるように構成された曲部が設けられ、
前記第2領域及び前記第3領域には、前記第2領域と前記第3領域との間の吸収コアが着用者側に隆起する変形の基点がそれぞれ設けられる、吸収性物品。

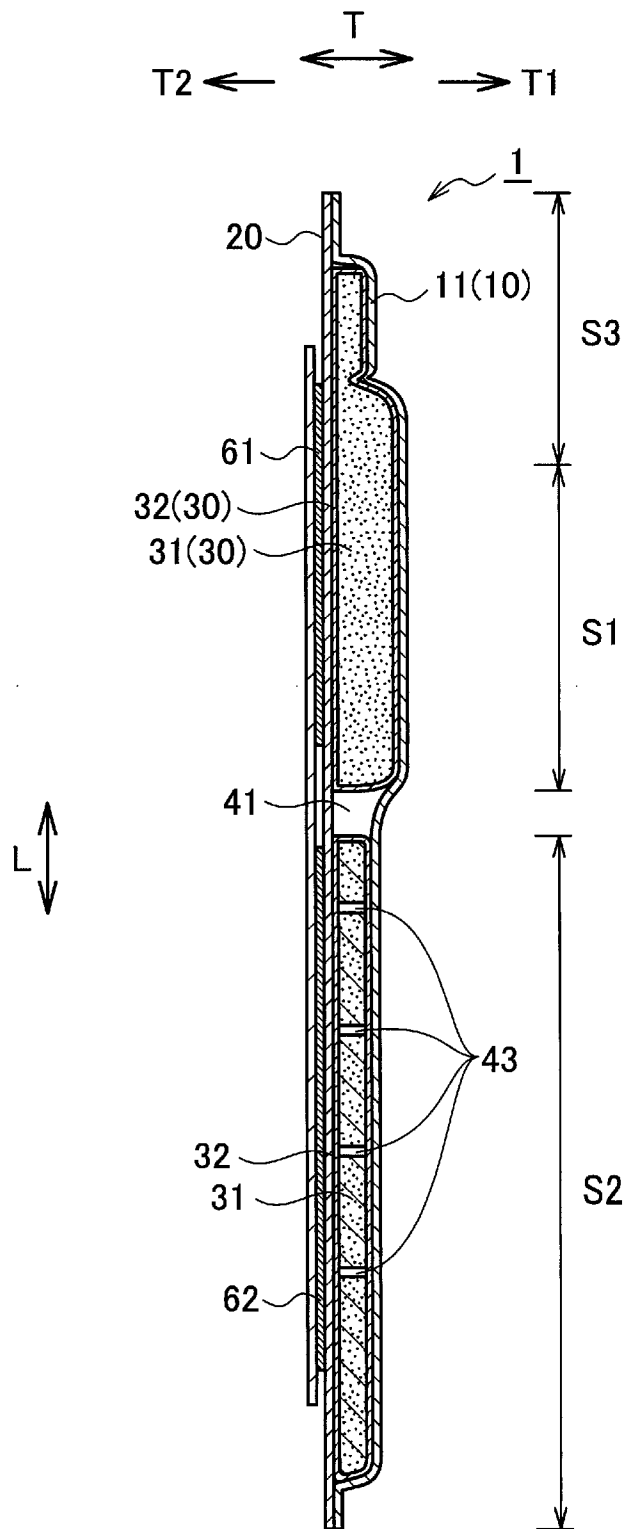
[図1]



[図2]

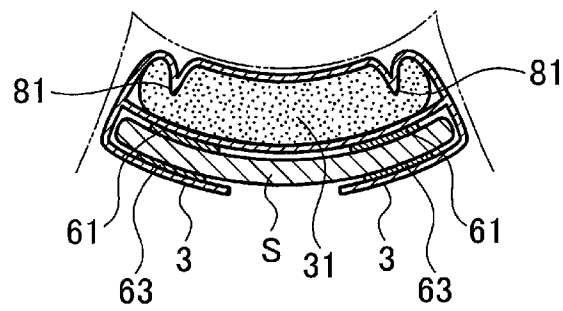


[図3]

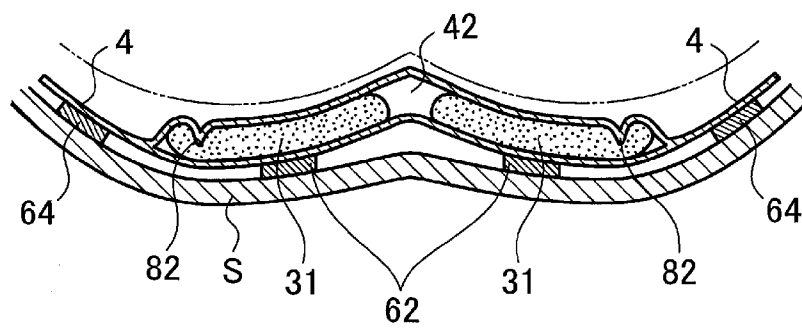


[図4]

(a)



(b)



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/083219

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61F13/15(2006.01)i, A61F13/472(2006.01)i, A61F13/53(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61F13/00, 13/15-13/84

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2016
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2016	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2016

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X A	JP 2012-95685 A (Daio Paper Corp.), 24 May 2012 (24.05.2012), paragraphs [0026], [0031], [0038], [0039], [0042], [0044] to [0046], [0051], [0056], [0057], [0063]; fig. 1 to 5, 9, 10 & WO 2012/057332 A1	1, 4-9 2, 3
X A	JP 2012-157459 A (Daio Paper Corp.), 23 August 2012 (23.08.2012), paragraphs [0020], [0039], [0046]; fig. 1, 3, 5 & WO 2012/105533 A1	9 1-8
A	JP 2008-79747 A (Kao Corp.), 10 April 2008 (10.04.2008), & CN 101152115 A & KR 10-2008-0028771 A	1-9

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
01 February 2016 (01.02.16)

Date of mailing of the international search report
16 February 2016 (16.02.16)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/083219

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2014-104094 A (Kao Corp.), 09 June 2014 (09.06.2014), (Family: none)	1-9
A	JP 2006-115996 A (Kao Corp.), 11 May 2006 (11.05.2006), (Family: none)	1-9

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61F13/15(2006.01)i, A61F13/472(2006.01)i, A61F13/53(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61F13/00, 13/15-13/84

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2016年
日本国実用新案登録公報	1996-2016年
日本国登録実用新案公報	1994-2016年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X A	JP 2012-95685 A（大王製紙株式会社） 2012.05.24, 段落[0026], [0031], [0038], [0039], [0042], [0044]-[0046], [0051], [0056], [0057], [0063], 図1-5, 9, 10 & WO 2012/057332 A1	1, 4-9 2, 3
X A	JP 2012-157459 A（大王製紙株式会社） 2012.08.23, 段落[0020], [0039], [0046], 図1, 3, 5 & WO 2012/105533 A1	9 1-8

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。

☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

01.02.2016

国際調査報告の発送日

16.02.2016

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（ISA/J P）

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

北村 龍平

3 B

3 3 2 3

電話番号 03-3581-1101 内線 3320

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	JP 2008-79747 A (花王株式会社) 2008. 04. 10, & CN 101152115 A & KR 10-2008-0028771 A	1-9
A	JP 2014-104094 A (花王株式会社) 2014. 06. 09, (ファミリーなし)	1-9
A	JP 2006-115996 A (花王株式会社) 2006. 05. 11, (ファミリーなし)	1-9